



第6回(平成22年度)甲賀市企業人権啓発推進協議会総会盛会のうちに終了

さる4月23日(金)午後2時より、忍の里プララ(甲南)において、第6回総会が開催され、多数の会員企業のご参加をいただきました。

開会に先立って、人権標語の優秀作品表彰があり、最優秀に選ばれた上野亜紀子さん(㈱滋賀銀行大原支店)をはじめ12名の方々に大塚会長より表彰状と副賞が贈られました。続いて、会長あいさつ、来賓祝辞のあと、議事に移り、第1号議案「平成21年度事業報告について」第2号議案「平成21年度収支決算書について」第3号議案「平成22年度事業計画(案)について」第4号議案「平成22年度収支予算(案)について」原案どおり承認されました。特に、今年度の事業計画においては、経営環境が厳しいなか、原点に立ち返って、人権が守られ、社会から信頼される企業・事業所をめざすことが強く表明されています。



議事終了後、特別研修として「差別事件の現状とこれからの企業啓発」と題して、(財)滋賀県人権センター主幹の丸本千悟さんに講演していただきました。「21世紀は人権の世紀」といわれて10年。「土地差別」に見られるように、姿を変えながら現れる差別。しかしながら、企業にとって「人権尊重」は道徳的・倫理的なものから、今や守らなければ社会から受け入れられないという規範として存在感を強めてきました。こうしたなかで、企業全体としていかに人権感覚を磨いていくかが、経営の健全化につながるということを講演していただきました。



丸本千悟さんの講演

甲賀市企業人権啓発推進協議会

人権標語 入選作品発表

昨年12月に募集しました人権標語には、81作品の応募をいただき、その中から最優秀1点、優秀11点が決定いたしました。たくさんのご応募ありがとうございました。



入選された方々

最優秀作品 見つめよう 自分の言動 相手の気持ち

(㈱滋賀銀行 大原支店)／上野 亜紀子

優 秀

- *信じてる みんなで摘めるよ 差別の芽 (㈱信楽産業グリーンラインたぬきタクシー)／杉本 孝司
- *人権は 一人ひとりの宝物 みんなで考え育てよう NECライティング(㈱滋賀工場)／多賀 吉治
- *気をつけよう!あなたの一言、言葉の暴力 塩野義製薬(㈱)／中島 容子
- *傷つけあい そんな「あい」より 支えあい 障害者支援施設りこう園／田中 佑哉
- *思いやり 絆でつなぐ 仲間の輪 滋賀県製薬(㈱)／田村 和樹
- *やさしさの たすきを繋いで 明るい社会 住友電工プリントサーキット(㈱水口事業所)／廣瀬 善隆
- *助け合う 心のやさしさ、大事だね。 岩上産業(㈱)／鵜飼 勝則
- *十人十色の違う良さ 相互理解で人権尊重 大塚オーミ陶業(㈱)／横山 一夫
- *ダメなやつ 決めているのは あなただけ 特別養護老人ホーム信楽荘／奥村 映子
- *人はみな 誰かの大事な宝物 (㈱滋賀銀行大原支店)／寺村 幸野
- *傷ついて 初めてわかる あなたの傷み 障害者支援施設りこう園／藤田 晶子 (敬称略)

平成22年度 事業計画

- 4月** 総 会
研 修
「差別事件の現状とこれからの企業啓発」
講師／丸本 千悟さん
(財)滋賀県人権センター主幹)
- 6月** 会員拡大に向けた企業訪問 (～7月)
広報誌第11号発行
- 7月** 経営者トップ研修
会員企業向け啓発グッズ配布
推進班員(職員)との企業訪問 (～8月)
- 8月** 人権フォーラム(窓口担当者研修)人権パネル展
就労相談員の工場見学受け入れ (～12月)
- 9月** 湖南省企人協との懇談会
- 11月** フィールドワーク研修
- 12月** 人権研修(会員企業の従業員対象)
広報誌第12号発行
人権標語の募集

※ホームページの更新(充実)…随時

特集／対談“企業じんけんトーク”

甲賀市企業人権啓発推進協議会が誕生して、はや6年。今回は「企業じんけんトーク」と銘うって、大塚昭三会長(山一化工(株)滋賀工場)、笹井建男事務局長(甲賀協同ガス(株))に登場していただき、日ごろの企業活動と人権のかかわりを語りあっていただきました。聞き手は墨田利晃啓発・広報部長(㈱水口テクノス)です。(以下、敬称略)

墨田 こんにちは。今日はお忙しい中、ありがとうございます。さっそくですが、まず、ご自身が企業の中で人権にかかわるようになったきっかけはどういうことからでしたか?

大塚 具体的に何がきっかけか?というより、企業は人間により成り立っている以上、人と人のかかわりを大切にしなければ本質的にやっていけない。「自助」「共助」「公助」は、何も災害の時だけ必要なものではなく、日常の中での「一人ひとりが大切だ」という意識がそういうことを実現していく、と考え続けてきました。

笹井 私も、甲賀市が誕生する以前の水口町の時からです。「水口町企業内人権啓発推進協議会」という名称で、最初、この行政的な響きにとまどいましたが、会議や研修会に参加すると、結構たくさんの方々が来ていて、真剣に学び、意見を交わしておられて、自然と自分もそういう流れの中に入れたと思います。
墨田 ありがとうございます。あらためて「人権とは何か?」と考えるとつかみにくいんですが、先ほど大塚会長も言っておられた「人と人のかかわりを大切にする」ことだと思うんですね。「ひとり」は弱いけど、「みんな」

は強い。「みんな」の強さをしっかり出すためには、みんなを大切にしないといけません。そこで、次は、日ごろの企業活動の中で、こういう観点から取りくんでおられることを紹介していただけますか?

大塚 そうですね。微力ではありますが、例えば、障がい者福祉施設が空き缶回収をされていますが、それに協力したり、あるいは、青少年支援ハウス「輝(かがやき)」に協力したり、とか。これは、今、社会問題となっている「ひきこもり」になってしまった方々が、もう一度、社会に復帰するための訓練を支援する活動で、我が社ではプラスチック再生作業をお願いしています。リサイクルされた原料は、新幹線の高架橋やトンネルの重要な部品として使用されています。作業している皆さんの明るく輝く表情を見ていると、あらためて、企業と社会のかかわりの大切さを感じますね。社会から絶たれてしまっていたきずなを復活するためには、



墨田啓発・広報部長

社会が受け皿を準備する。それが社会の利益につながり、ひいては、企業の利益につながるわけですからね。

笹井 私の会社はガスを供給させていただいています。毎日、ガス配送車、保安点検車、工事車、営業車などたくさんの車両が市内を走っています。そんな中で、こんなことがありました。ちょっと前を走っていた車から荷物が落下し、あわてて積みなおしをしていたので当社の工事車が停車し、社員2名がお手伝いをしたら後日、電話で丁寧なお礼をいただいた。別にお礼をいってもらうためにやったのではないのですが、やはり感謝されるとうれしし、人と人とのつながりは大事ななあ、と感じました。我が社は仕事から、誰かが何かで困っていることに会える機会が多いので、そのときに自分ができることはちゃんとやる、そしてそのことを会社の宝物として大事にしていくということが、社員としてのほこりや働く意欲を引き立てることにつながりますから。

墨田 なるほど。我が社は、総合リサイクル業をやっているんで、環境・福祉・農業をつなぐ NPO 法人を立ち上げて活動しています。田んぼや畑を用意して、そこにリサイクルでできた有機肥料をまき、稲を植え、種をまき、育てて、収穫する。これを、広く呼びかけて会員をつのって、全員でやってもらいます。田植えには「サニーサイドのチャレンジクラブ」のみなさんにも参加していただき、秋に収穫したお米を炊いて食べるときに使うお茶碗も「信楽学園」のご協力を得て、自分の手で絵付けしたものをつくりました。

大塚 実は、私も個人的にその活動に家族ぐるみで参加しています。孫もそういう交流を生き生き楽しんでますよ。

墨田 話は変わりますが、近年、人権啓発に取りくむ私達の協議会のような組

織は全国的に増えているようですね。

笹井 そうそう。この2月18日には高知県の香美市(かみし)企業等人権啓発連絡会から視察に来られて我々と意見交流をしました。お互いの状況はちがいますが、差別を無くし、人権が尊重される社会を作っていくために企業として何ができるか?何をしなければならないか?という熱意は充分に感じられました。

大塚 そうですね。グローバル化・電子化され便利になった現代ではありますが、反面、人と人とのつながりは、希薄になり、ぎくしゃくしている、という状態は年々ひどくなってきています。これをそのまま放置していいはずがない。

墨田 厳しい経済状況をのりこえていくためには、やはり、一人ひとりの力がしっかりと発揮されて、お互いを支えあえる力が社会に戻ってこなければならぬ。企業はその担い手として益々期待されるようになってきたわけですね。今日は本当にありがとうございました。



大塚会長



笹井事務局長



香美市企業等人権啓発連絡会との交流